

子どもの思い出が詰まったおもちゃに新たな命を吹き込む

古河おもちゃドクター



日々の楽しみの延長から生まれた
新しい地域とのつながり

無償で子どもたちのおもちゃを修理する、古河おもちゃ病院のドクターたち。退職後の自身の楽しみとして始めたこの活動には、新しい地域とのつながり方のヒントがありました。

古河おもちゃ病院設立のきっかけは、7年前に古河市社会福祉協議会が開講した「おもちゃドクター養成講座」でした。受講した5人は、せっかくなら自分たちも定期的に活動してみたいと思い、古河おもちゃ病院を開院したそうです。

最初は、退職後の時間の有効活用や自身の趣味の一つになればという考えで始めたが笑いながら話す代表の中村さん。しかし今は、修理したおもちゃを見て喜ぶ子どもたちの満面の笑顔が何よりもうれしくて、活動を続ける原動力になっていると言います。

古河おもちゃ病院のドクターは、今では15人となりました。手先の器用さ・不器用さに関わらず、さまざまな人が日々勉強し技術を磨いています。自分たちの楽しみのために始めたこの活動は、いつの間にか「二人でも多くの子どもを笑顔にするために」が合言葉となり、メン

バーみんなで知恵を出し合いながら、一つ一つ丁寧に修理することにつながっています。子どもたちの思い出がたくさん詰まったおもちゃを修理するまちの名医たち。メンバーの皆さんは「ボランティアなんて言葉は私たちには似合わないよ」と言っていて笑います。しかし、ここで始まった小さなつながりは、困った人を助け今まで交わることのなかった人たちをつなぐ存在になっています。

場所
第2木曜日：古河福祉の森会館 第3土曜日：健康の駅
時間
10時～12時
費用
無料 ※場合により費用をいただくことがあります。



「自分たちが楽しむ」
その先にある
本当の生きがい



古河市社会福祉協議会
事務局長 竹村浩之さん

地域参加の芽は「楽しい」と「感謝」で大きく育つ

地域活動やボランティアは、義務感で始めると長くは続きません。活動している人自身が楽しみ、新たなつながりを作っていくうちに「やっけて良かった」という気持ちに変わると思っています。

この活動が生きがいに変わる一番のきっかけは「ありがとう」という感謝の言葉です。最初は小さなつながりかもしれませんが、それが少しずつ広がることで、地域を支える大きな輪に変わっていくと信じています。

古河おもちゃ病院 メンバーの声

子どもの笑顔が
私たちの活動の原動力



吉田光聖さん (78歳、中央町)

最初は、息抜きにでもと思っていましたが、手先を動かすことや多くの人と話せるので、頭の体操にちょうどいいですね。

「おじちゃん、ありがとう」と言ってもらえるのが、一番の楽しみです。

これからも、ここで出会うことができた仲間と一緒に力を合わせて、子どもたちの思い出がたくさん詰まった宝物を直していきたいです。

古河おもちゃ病院 利用者の声

気軽に頼ることのできる
我が家の名医



秋田美樹さん (幸町)

おもちゃドクターには、いつもお世話になっています。子どもがおもちゃを壊してしまっても、ドクターに修理してもらえるのでずっと遊べています。

何度修理を依頼しても、気さくに笑顔でおもちゃの修理をしてくれるおもちゃドクターにはとても感謝しています。本当にありがとうございます！